

第12回「円山川大規模氾濫に関する減災対策協議会」 議事要旨

日 時：令和8年5月26日（火）13：00～14：30

場 所：円山川防災ステーション（WEB会議併用）

出席者

豊岡市 市長	門間 雄司
兵庫県但馬県民局 総務防災課 班長	濱名 良輔（代理）
兵庫県但馬県民局 豊岡土木事務所 事務所長	田中 秀典
気象庁 神戸地方气象台 次長	熊谷 達也（代理）
西日本旅客鉄道株式会社 兵庫支社（地域共生）課長	岸本 佳之（代理）
WILLER TRAINS 株式会社 安全監査室 室長	増井 克至（代理）
全但バス株式会社 安全推進リスク管理室 安全監理官	宮崎 茂樹（代理）
近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所 事務所長	澤村 学

次第

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 報 告
 - 1) 円山川大規模氾濫に関する減災対策協議会 幹事会の報告
 - 2) 円山川の減災に係る取組方針に基づいた報告
 - 3) 住民防災意識調査結果
4. 議 事
 - ・円山川の減災に係る新たな取組方針について
5. 連 絡
 - ・各機関からの連絡事項

内容

1. 円山川大規模氾濫に関する減災対策協議会 幹事会の報告

- ・第14回幹事会の審議内容を事務局から報告した。

2. 円山川の減災に係る取組方針に基づいた報告

- ・減災に係る取組方針に基づいた10年間の取組総括を各機関から報告した。
各機関の主な報告内容は以下のとおり。

【豊岡市】

ハード事業は、福田排水機場整備や排水ポンプによる道路冠水対策等を実施し地域の道路冠水の発生防止や避難経路、緊急車両の通行確保に寄与している。ソフト事業は、平成16年台風23号の被災経験を踏まえ、全世帯を対象とした戸別受信機の貸与、避難情報発令基準と区域の明確化、住民避難のために必要な情報の適時発信等、様々な取組を進めてきた。災害ボランティアセンターの設置・運営に向けた協定締結や避難訓練の実施大規模災害時の円滑なボランティア支援に関する取組は、市民の早期復旧・復興の大きな力となる。引き続き関係機関と連携を深めていきたい。

【気象庁 神戸地方气象台】

防災気象情報について、危険度を色分けした時系列情報、「警報級の可能性」の提供、洪水予報文への警戒レベル相当の明記、台風の予測期間の延長、線状降水帯発生の予測等、受け手にとって、わかりやすい情報となるよう毎年継続した改善を行ってきた。今後も皆様の防災活動に役立てるようにしていくため、是非情報を活用していただきたい。

【兵庫県但馬県民局 総務企画室】

「フェニックス防災システム」を活用し、Lアラート、ひょうご防災ネットと連携した速やかな災害関連情報の拡散に努めてきた。大規模災害発生時の食料問題に対して、ローリングストックを推進し、県内スーパーと連携した「ひょうご備蓄キャンペーン」を実施し、県民の備蓄に対する意識向上など一定の成果をあげている。但馬広域防災拠点では県内の防災拠点とネットワークを結び災害への備えを実施しており、今年度は同拠点での市民の体験イベントも計画している。

【兵庫県但馬県民局 豊岡土木事務所】

市民や県民の的確な避難判断・行動を支援するため、浸水想定区域図・CG ハザードマップ、河川ライブカメラ、防災学習アーカイブス等、各種情報発信を行ってきた。災害時の円滑・迅速な対応のために、水防資機材の配備や建設業協会との災害協定締結に

努め、令和5年台風7号被災時には、災害時の応急復旧を速やかに行った。県管理ダムでは、令和5年8月、令和6年8月に台風接近時に備えた事前放流を実施し、最大2.6万m³の空き容量を確保した。

【豊岡河川国道事務所】

ハード事業としては、下流部のひのそ地区等の無堤対策を段階的に進めている。中郷遊水地は、下池において、治水機能発現に係る整備が令和8年5月に完了し、出水期から運用開始予定である。稲葉川合流部の整備では、平成29年台風18号洪水に対して、浸水被害ゼロと効果を発揮した。ソフト事業として、防災まちづくりの検討に活用可能な内外水統合型リスクマップ等、水害リスク情報の提供を行ってきた。また、兵庫県、豊岡市と連携して、豊岡市内の全29の地域コミュニティのうち、16地域で防災ワークショップを開催し、地域の防災力向上の支援に努めている。

【西日本旅客鉄道株式会社 兵庫支社】

2014年の台風11号時の駅間停車が発生した状況等を踏まえ、乗客、車両の安全を最優先として計画運休を導入してきた。社内でのタイムラインを設定し、計画運休の可能性がある2日前や計画運休実施の前日など、プレスや駅などで広く知らせるとともに、列車の計画運休や輸送障害時における列車の運行に関する情報提供をWESTERアプリ等で行っている。

【Willer Trains 株式会社】

台風等災害時のタイムラインのブラッシュアップや、气象台のオンライン気象解説を活用した計画運休を実施してきた。豊岡駅構内の夜間滞泊車両の避難方法検証や、異常時の伝達訓練の実施、情報共有アプリを導入し、異常時における関係社員への情報伝達体制を確保するなど体制強化に努めている。

【全但バス株式会社】

タイムラインに基づく、バスの運行管理や旅客への運行状況の案内を実施してきた。円山川の水位情報に基づいた豊岡営業所の車両避難を実施し、事業継続のための措置も行っている。今後も、台風やゲリラ豪雨等で交通機関の乱れが生じることもあるかと思うが、バス会社として地域住民の足となるよう安全輸送につとめていきたい。

3. 住民防災意識調査結果の報告

- ・平成28年度より10年間実施してきた減災対策に関する取組の効果を確認するために、豊岡市民へ実施したwebアンケートの結果を事務局から報告した。

4. 円山川の減災に係る新たな取組方針について

- ・令和8年度からの5年間の新たな取組方針（案）について、事務局より説明を行い、賛成多数で承認された。新たな取組方針に関する質疑応答は以下のとおり。

（豊岡市）

- ・想定最大規模の浸水では、豊岡市全域が浸水してしまい、ほとんどの避難所が利用できない状況のため、市としての対応が難しい状況である。水害リスクの周知の取組状況に対する課題として記載されている「リスクマップの活用方法に関する研究」は、どのようなことをイメージしているのか教えていただきたい。

（事務局）

- ・まちづくりや住まい方の工夫に役立てていただくことを目的に、内外水統合型水害リスクマップを公表したが、洪水浸水想定区域図とあわせて複数のリスク情報が提供されているため、混乱を招く可能性がある。今後、住民に向けて丁寧に説明していくためにも豊岡市と協力してやっていきたい。

（WILLER TRAINS 株式会社）

- ・社員への防災教育について新規取組が追加されたが、会社として鉄道事故防止のノウハウは持っているが、社員の普段の生活における防災教育に関するノウハウが少ないため、フォローや支援等していただけるものはあるか。

（事務局）

- ・国土交通省が中心となって実施する防災イベントや学習会もあるため、案内をさせていただきます。

5. 連絡

- ・神戸地方気象台より、令和8年5月29日より運用される「新しい防災気象情報」について、情報提供が行われた。